

須磨区会

神戸大学医学部の

老人看護学授業で高齢者役

国2 - 須 浦上 俊樹
毎年心待ちしている楽しいボランティアがあります。それは神戸大学医学部保健学科看護学専攻学生（卒業後は看護師になる）3回生の老人看護学の授業にて行うものです。

看護師役の学生が高齢者役の私たちボランティアとの会話や観察から高齢者特有の健康状態や心理状況を把握しそれに応じた対応を実地に演習するものです。学生たちは最近の家族形態が核家族化し、老人との同居が少なく、従って老人世代との交流があまりないので、私たちがその代わりの役をします。

私たちのありのままの体験や現在の状態などを話したり質問に答えたりします。私たちとしても女子大学生とマンツーマンで色々話し合うことは滅多にないことであり、30分間の対話は実に楽しいものです。

私たちとしても若い世代を色々な面から観察でき良い機会でもありません。

1日に各々30分づつ2名の学生と対談することを2日間行います。須磨地区グループ“わ”より7、8名が参加し、ことして3年目になります。

大学への行き帰りには授業の全学生が校門まで出てきて送迎してくれて、私たちも彼女たちから若いエネルギーをもらったような楽しい気分です。

生物の掟は新陳代謝である。このときこうした設備が貴重な存在であるのは、以前から十分認識はあったはずだが、現実には車椅子の人、耳目の不自由な人と出会い接し、なお一段とこの必要性が強調される思いが募った。しかし世話を受けるのも、世話をするのも人間である。そして、人間の労力だけがその恩恵を受けられ、その役目を果たす動機ができる。その対応は常に忍従の連続だと、改めてこのスタッフに頭の下がる思いだった。

この夏祭り催場に“わ”長田区田中彬夫地区委員長は区役所福祉課の要請に応じて参加させてもらい、8月7、8、9日の3日間で7名が働いた。

最終日の参加は筆者と7期生。彼女はK子氏だった。共にボランティアは初体験で、彼女は飲み物を売り、筆者は予想外にも綿菓子作りだった。当初は不慣れな仕事に躊躇したが、作るたびごとに綿菓子特有のふっくらとした形ができるようになり、終わるころには「次回から綿菓子作りの技術者として登録したら」と同じ仲間の女大生に揶揄されても気を良くしたボランティア日だった。



神戸大医学部保健科にて学生達と(後列右から3人目が筆者)

長田区会

夏祭りボランティアに参加して

国6 - 長 田 實 光 男

平成15年8月9日長田区神戸ザルビア特別養護老人ホーム主催“夏祭り”催し場の販売手伝い人となった。当日は台風10号の通過直後で日照りが強く湿度の高い日だった。老人ホームと聞けばまず陰鬱の様相が一瞬過ぎる。しかし、見える館は瀟洒でシックなビルだった。玄関に

足を踏み入れた途端に受付嬢の歯切れ良い声音がこの外観に微妙に調和し和やかな安堵感を与えていた。

催場にはすでに本日の招待客の約300名が様々な形態で集まっていた。この地区の80歳以上の方々を送迎バスで出迎え、歌わせ踊らせ、そして、たこ焼き、おでん、綿菓子などで歓待し、滅多に外出のできない、対話相手もない孤独な人々に一度この機会を与え気儘に振舞わせていた。

今更述べるのはおこがましいが、

北区会

北区(7期生)会員交流会

国6 - 北 柳田栄一

「新入会員と北区地区世話人との交流会」を9月9日(火)午前10時~12時までカレッジ和室にて茶会形式で会員55名を対象に29名の出席を得て行いました。

地区交流会の趣旨は「ボランティア活動への活性化を図るため 会員との交流を深めると共に今後 地区への社会還元活動へのきっかけづくり」の目的でした。

- ・北区地区部会世話人の紹介
- ・“わ”の概要紹介
- ・平成14年及び15年度の北区地